

校長室より

第50号

「天空高き」



平成25年8月31日

2学期へ

今年の夏は記録的な猛暑で、また記録的な豪雨もあり、各地に大きな被害をもたらしました。被害に遭われた地域の方々には、心よりお見舞い申し上げます。

部活道部の諸君は夏休み中にもかかわらず、練習や、大会、合宿、遠征に参加し、ほとんど休みがなかったかもしれません。また、3年生の皆さん、特に進学を目指している人は、前後期進学講座への出席や自主勉強で毎日学校に出ていた生徒もいました。

盆明けからは、就職講座が開講し、毎日面接指導や作文添削で、先生方や就職コーディネーターの方々に厳しく鍛えられたと思います。日に日に皆さんの顔が引き締まり、大人の顔に近づいて来たように思います。一人ひとりの志望は違いますが、目標に向かって、一生懸命に取り組むみなさんの姿勢が、まぶしく頼もしく思えてきました。そんな皆さんの姿は、先生方にも大きな影響を与えるのか、皆さんに温かい激励の言葉を掛けておられました。

3年生の皆さんにとっては、短い夏休みだったかもしれませんが、短いと感じた人は全力で取り組んだからでしょう。受験が近づくに従って、焦りや不安が脳裏をかすめ精神的に追い詰められることもあるでしょう。そんなときこそ、さらに努力してください。さらに成長することができます。大切なことは自分を信じ、自分の力を100%発揮すればよいのです。100%以上の力を発揮しようとすれば無理がたたり長続きしません。50の力の人は50の力を、80の力の人は80の力を、発揮すればよいのです。そうすれば結果は必ずついてきます。

9月8日は運動会、20・21日は楽学祭があります。今年も「元気・やる気・本気」で取り組み、一人ひとりの心に残る思い出にしたいですね。



成功には偶然があり、失敗には訳がある。

「お互いさまです」～萩市須佐へ災害ボランティアに～

8月13日（火）に総勢89名（高校生65名、短大生14名、教員10名）が、萩市須佐地区へ災害ボランティアに行ってきました。

周南市から国道315号で徳佐、阿東、むつみを経由する山越えで須佐に入りました。

途中で河川が氾濫し、堤防が決壊し、道路や田んぼに土砂が流入し河原化していました。至る所で道路が寸断され、山の斜面も崩落していました。

3時間かけてようやく災害ボランティアセンターに到着しました。我々には須佐、江崎、小川地区の家財搬出と泥出しの任務が与えられました。焼けつくような炎天下、皆さんは黙々と与えられた任務を泥まみれに、汗だくになりながら、こなしてくれました。

ボランティア活動は「市民活動の一部であって、営利を目的とせず自発的な意思に基づいて他人や社会に貢献する実践的な活動」です。

現代、日本社会は高齢化、核家族化等の進行により、家庭機能が低下しているといわれています。

また、地域社会においても、「お互いに助け合う」といった人間関係が希薄になりつつあります。

その中で、人と人のきずなを生み出すボランティア活動は、互いに対等の立場に立ち、理解し合い、そしてお互いが支え合う社会の実現を構築することができると思います。

今回のボランティア活動が初めてという人も多かったと思います。時間も限られたものでした。しかし、今回の活動を通して人と人との触れ合い、自然との触れ合い、また、様々な文化との触れ合いを体験することができました。ボランティア活動の経験は、若い皆さんを思いやりの心をもつ人間として大きく成長させ、自己啓発にもつながったのではないかと思います。

私は、快くボランティア活動に参加していただいた皆さんに改めて深く感謝するとともに、皆さんを誇りに思います。ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



“やればできる”ではなく、“やらなきゃできない”のです。

花を愛でる～新しい花壇が誕生しました～

この夏、安東先生のご尽力で花壇が新たに2カ所つくられました。

今年に夏は記録的な猛暑でした。安東先生は、毎日朝と夕に水やりをされています。福山先生も同じように水やりを手伝っておられます。

生き物を育てるということは、生き物と一緒に暮らすことになります。毎日、朝夕水をやり、草抜きもします。本当に手間暇がかかります。



安東先生はいろいろな種類の花を育てられています。私が、感心させられたのは、すべて種子から育てていることです。種子から栽培するということは、苗から育てるのと違い、大変に手がかかります。

一般に、種子の発芽条件は「温度・水分・酸素」ですが、植物の種類によって種子の発芽にはいろいろな条件があって、それをクリアしないと、発芽がうまく進行しません。

発芽させるには、さまざまなポイントがあります。

うまく種子を発芽させるためには、正しい覆土（ひど）の量と厚み、種類に合った光の量、正しく適度な水やり、適度な温度(まきどき)、適度な湿度などがあげられます。

この暑さが和らぐ季節を迎える頃には、色とりどりの花が咲き誇り、我々の目を楽しませてくれます。安東先生や福山先生の苦勞がやっと報われるときです。でも、次の作業である種子取り作業がもう始まっています。

イチロー語録

米大リーグ、ヤンキースのイチロー外野手（39）が21日のブルージェイズ戦で、日米通算4000本安打を達成しました。そのときのインタビューで、イチローはこう言っていました。

「これからも失敗をいっぱい重ねていき、たまに上手くいくという繰り返し。打撃とは何か、野球とは何か。少しでも知ることができる瞬間は、うまくいかなかった時間と自分がどう対峙（たいじ）するかによる」と答えています。

偉大な結果を残した選手の言葉に学ぶことが多いと思いました。



共同通信社

スマホ時代の今～スマホの何が問題？～

本校は携帯電話等は持ち込み禁止になっていますが、内閣府（2013 年 1 月）によると高校生の携帯電話所持率は 98.1%、そのうちスマートフォン（以下スマホ）所持率が 55.9%と急増しています。大都市圏では 78.8%という調査結果も出ています。また、スマホの低年齢化が驚くべきスピードで進行しています。もはや、この流れを止めるのは難しいと思います。

スマホは多くの問題や課題を持っていますが、以下の 3 点について皆さんも真剣に考えてもらいたいと思います。

（１）「スマホ依存症」～高い性能と操作性～

スマホでソーシャルネットワーク、LINE やフェイスブックなどでの交流、動画視聴などパソコンでしかできなかったことが可能になりました。そのためにスマホ依存症になり皆さんも知っているように睡眠不足などの障害がすでに発生しています。

（２）「アプリ問題」

スマホはネット上で自由にアプリをダウンロードして使用できるので、さまざまな問題が発生しています。一例を挙げるとカメラ問題。アプリは世界標準なので、日本独自の規程は適応されず、シャッター音がならないカメラが簡単に、しかも無料で手に入ります。最近、盗撮事件が頻発していますが、アプリ問題と無関係でないと思います。

（３）「危険と隣り合わせ」～フィルタリング問題～

今までは法により 18 才未満は保護者の同意がないとフィルタリングを外すことができないので、皆さんは、違法・有害サイトから守られていました。

しかし、スマホは一般パソコンの無線 LAN 用の Wi-Fi 回線も使用できるので、多くの子どもたちが無防備なまま、違法・有害サイトにアクセスできるようになりました。

日本の子どもたちは、フィルタリングに守られない危険な環境でスマホをしています。これは本当に最重要課題だと思います。

スマホは、通信手段というよりも、もはや手軽に持ち運びできる小さなパソコンです。

オンライン上でのマナーを教え、皆さんを危険からも守ることは我々大人の責務ですが、生徒の皆さんもオンラインゲームに潜む危険性、他者のプライバシーを尊重し、責任ある行動をとってもらいたいと強く思います。

もし間違いを犯しても、
それが深刻なものであったとしても、
いつも別のチャンスがある。

失敗というものは、転ぶことではない。
そのまましゃがみこんだままにいることである。（メアリー・ピックフォード）